

# 今後の安全・安心に関する科学技術の取組

資料 2-4-2  
科学技術・学術審議会  
研究計画・評価分科会  
(第44回) H25.3.4

## 目的

科学技術の成果を安全・安心な社会の実現へと結びつけるため、安全・安心に資する科学技術の推進と社会実装への取組を推進する。

## 背景

- 我々を脅かすリスクは多様化、複雑化、様々なリスクから社会の安全・安心を守り、リスクに対して「強くしなやかな社会」を構築することが必要
- 国民がリスクに適切に対処するため、リスクに関する知識を共有し、意識の向上を図ることが必要
- 多様化、複雑化するリスクに対応するため、分野横断的、ハードとソフトが連携した総合的な研究開発を推進することが必要
- 研究開発成果を社会的課題解決に有効に活用するため、研究課題を設定する段階で、社会的ニーズを適切に反映するための取組が必要

当面の課題

リスクへの対応・対策のための合意形成手法、プロセスの検討・実践（安心文化の構築）  
社会にとって脅威となるリスクの同定、共有（社会が何にどう備えるかを明確化）  
社会のニーズ、大学・研究機関等のシーズに対応した研究開発の推進（安全・安心イノベーションの推進）

## 安全・安心科学技術及び社会連携委員会

安全・安心な社会の実現に向けた科学技術上の政策課題等に関する検討

## 検討内容

※大規模自然災害、感染症等の検討は、担当委員会で行なわれており、本委員会では、分野横断的な事項について検討。

### リスクコミュニケーションの実践的手法、リスクの抽出・評価及びリテラシー向上の方策等の検討

「東日本大震災を踏まえた今後の科学技術・学術の在り方について」(平成25年1月17日建議)の指摘を踏まえた、リスクコミュニケーションの実践的手法、経済的・心理的影響を考慮したよりよいリスク評価手法、専門人材の育成などの具体的な取組について検討を行う。

### 市民・社会との双方向の情報共有の仕組み・方策、問題解決のための科学技術と社会連携・共創の在り方

科学技術に関する知識・情報(リスクも含む)を自治体、国民、企業などの間で共有化を図り、意識を向上する仕組み及びこれらの具体的な取組について検討し、問題解決のための科学技術コミュニティと社会の双方向の連携の在り方について検討を行う。

### 安全・安心な社会の構築に資する科学技術のあり方、重要研究課題

安全・安心な社会の構築に向けて必要とされる重要研究課題、社会的ニーズを適切に反映するシステムの構築について検討を行う。  
(JST RISTEXと連携)

(現在の事業)

- ・犯罪・テロ対策技術等を実用化するプログラム(H22-27)
- ・コミュニティがつなぐ安全・安心な都市・地域の創造(H24-28)

※これらについては、今後のプログラムの評価を踏まえ、その後の対応を検討